

2019年1月30日

日本学術会議 課題別委員会

科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会

健康・スポーツ科学分科会（第24期）における活動・議論の概要

1. 第23期提言「子どもの動きの健全な育成をめざして～基本的動作が危ない～」についてのインパクト・レポートの作成
2. 第24期に取り組む活動テーマについて、第1回分科会（平成30年5月17日）において自由討議を行い、パラアスリート、健康寿命延伸、女性、内在的価値、環境整備などの意見が出された（平成29年10月～平成30年9月年次報告より）。
3. 日本スポーツ体育健康科学学術連合および（一社）日本体育学会との連携強化
 - ① 共催シンポジウムの開催（平成31年1月12日）緊急公開シンポジウム2019「我が国におけるスポーツの文化的アイデンティティ再考」
 - ② 体育・スポーツ科学関連国際会議（2020年9月8～12日、横浜）の開催準備協力
4. ワーキンググループ（WG）の設置
 - ① スポーツに関わる史料・文化財・多様な情報の保護・管理に関する検討
 - ② 健康寿命の延伸・パラアスリートの環境整備に関する検討
 - ③ 体育・身体活動・スポーツの内在的価値およびターミノロジー・オントロジーに関する検討
5. WG①に関する議論（平成31年1月12日 第2回分科会）*別紙資料あり
 - ・国際オリンピック委員会（IOC）では、どのように規定が整備されているのかを確認する。
 - ・良い面だけでなく、負の側面も取り扱う情報に含めていくことが、持続可能性を担保する上で重要。
 - ・地方行政も意識して提言を発出していくとよい。
 - ・これまでとは異なったアーカイブの方法が必要になる（情報科学の知見が必要）
 - ・国立スポーツ科学センターには、アスリートの膨大なデータが蓄積されているが公開されていない。何らかの方法で活用できるようにしていくべきだ。
 - ・いかに情報を作っていくか、利活用していくか。文科省（1995）「科学技術基本法」では、「文化資源」という表現があり、文化が日本のGDPを高めるという考え方が打ち出された。文化資源をどう作り、発掘し、世界に発信するか、そのテクノロジーも求められている。
6. WG②に関する議論（平成31年1月12日 第2回分科会）

- ・平成 30 年 12 月末に行われた関連シンポジウムについての報告がなされた。
- ・分科会において議論を深めるため、ヒアリングを行い、現状と課題を明確にしたい。

7. WG③に関する議論（平成 31 年 1 月 12 日 第 2 回分科会）

- ・これまでに発行された体育学・臨床スポーツ医学の用語集について紹介。今の時代に必要用語を他分野の用語との関連において明らかにしたい。
- ・栄養科学の分野で進展しているオントロジーの現状について参考にするため、ヒアリングを行いたい。
- ・「体育」と「スポーツ」の用語の使用について混同があるため、分科会として見解を出すと良いのではないか。
- ・時間的な制約があるため、検討を行う仕組み作りをするのが分科会の役目ではないか。
- ・専門用語の整備をしていく必要性を提言していくことになると思う。
- ・分科会が表出するものは影響力を持ち、「かくあるべし」になる可能性があるため、周知な準備が必要。関係領域のチェックも抜かりなく行うべきだ。今、現実に使われているからこうだというだけでは収まらない。
- ・用語の使用については、利益や社会的勢力の影響があることも事実だ。並べるだけでも意味があるのではないか。
- ・用語の問題は、WG①でも範疇においていく。分野を生成する方法論を提示することにつながる。

（文責 田原淳子）